



山本 議員

1 村の水害対策

問 3月11日に起きた東北関東大震災の現地へ行ってきましたが、津波、原子力発電所の事故で日本は岐路に立っており、村長の認識を伺います。



宮城県南三陸町

中村村長 今回の震災は記憶・記録に残すべきだと考え、機会があれば職員を現地へ派遣します。原発事故を見て本当に北海道でも大丈夫なのか心配しており、占冠でも放射線量モニタを購入して調査します。

問 被災地に行き支援するのものとつですが、占冠村で何ができるのか考える必要があります。人命財産を守るのが行政と議会の第一義だと思いい、災害全般について質問しますが、昭和37年に3人の尊い命が失われた水害の状況を伺います。

中村村長 昭和37年8月4日の水害は台風9号の風雨により総雨量は290・4mm。被害状況は、上トマム、下トマム、占冠、中央、双珠別、二二ウが道路寸断で孤立。堤防が決壊し、中央市街地は浸水。住民は全て占冠中学校に避難し、役場も浸水したため対策本部は中学校に設置。家屋被害を始め通信網も浸水被害で被害が大きく、対策本部は自衛隊や警察無線で対応しました。

問 村の水害は平成に入ってから、平成4年、10年、13年、15年、18年と、時には270mm超の雨量の水害が多発しています。ゲリラ豪雨の発生や平均気温上昇など今後の気候変化について村長の認識を伺います。

中村村長 昨年は東川町で死者を伴う水害があり、他にも上川管内各地で大雨や農業被害も多く、気候は10〜20年前と比べ

変わってきたと思います。

問 近自然学では全てを止める堤防の危うさが言われ、中央で暮らす方は堤防を過信していませんか。洪水を人為的にコントロールする考えはありますか。



占川橋から下流(平成18年8月19日)

中村村長 本村は分水嶺があり、人為的な洪水調整は難しいが、山林が90%以上占めており、森林管理での洪水調整は可能だと思っています。

問 役場の被災で非常時に機能不全に陥ることが今回の大震災で分かりました。将来、役場を移すべきではありませんか。

中村村長 築後40年近く経ち、庁舎建て替えの際には災害も含め住民と協議し考えていきます。

2 村の雪害対策

問 平成19年1月7日の雪害、停電の災害状況を伺います。

中村村長 1月7日の未明から暴風・降雪により送電線に倒木が接触して村内全域が停電し、中央地区は総合センター、トマム地区はコミュニティーセンターに住民が一時避難しました。

問 停電により暖房機器が使えない状況が1晩2晩続いたとき、各避難所での対応はできますか。

中村村長 停電時の暖房対策は占冠中学校、トマムコミュニティーセンターを避難所とし、発電施設があります。発電機の燃料は8時間くらい持ち、軽油でローリーでの補給が可能です。

問 発電機の燃料が冬期8時間では不安が大きいが、どうですか。

中村村長 避難所に灯油備蓄が可能か検討しなければ分かりません。

問 双珠別、占冠は、停電時に

ます。

暖を取れる場所がありますか。
中村村長 双珠別、占冠地区の避難所は長時間になると無理な状況です。

3 災害全般の備え

問 村では非常食セット、エマージェンシーシート、毛布、水害時のラフトボートなど災害時の備品・備蓄はありますか。非常食は千人分を約60万円で購入できますが、伺います。

中村村長 この備蓄は現在ありません。今回の大震災を教訓に一定の準備する必要性を感じ、計画的に用意してまいります。

問 災害時の情報伝達についてどう考えていますか。

中村村長 電話サーブス案内の情報伝達を検討しています。

問 村民は震災後、防災に対する意識が高まっており、防災の見直しを今やらないのは行政の怠慢であり、地域防災計画の見直しを伺います。

中村村長 防災に関しては備蓄品や保管庫等の問題もあり、なるべく早い時期に思っています。